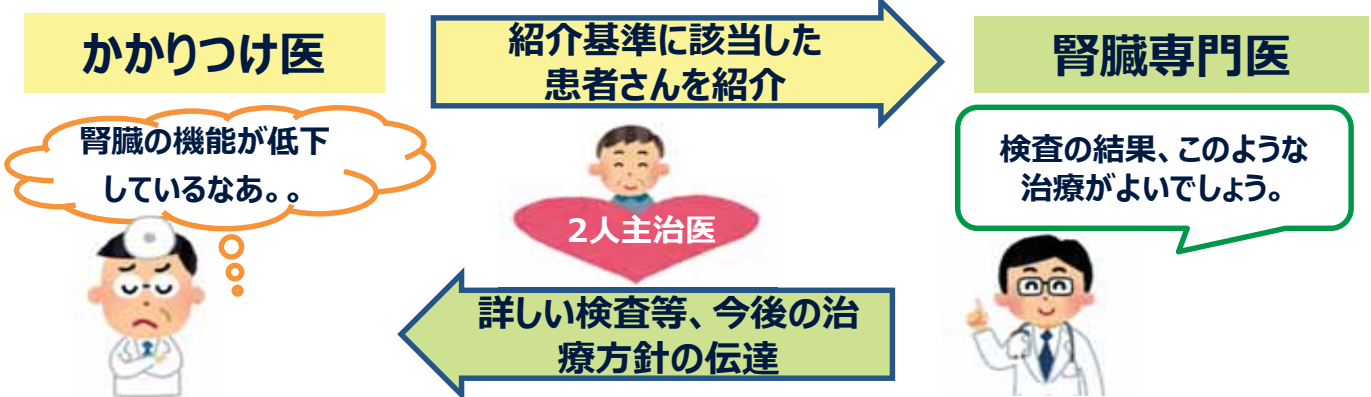


熊本市重症化予防について



CKD病診連携システム

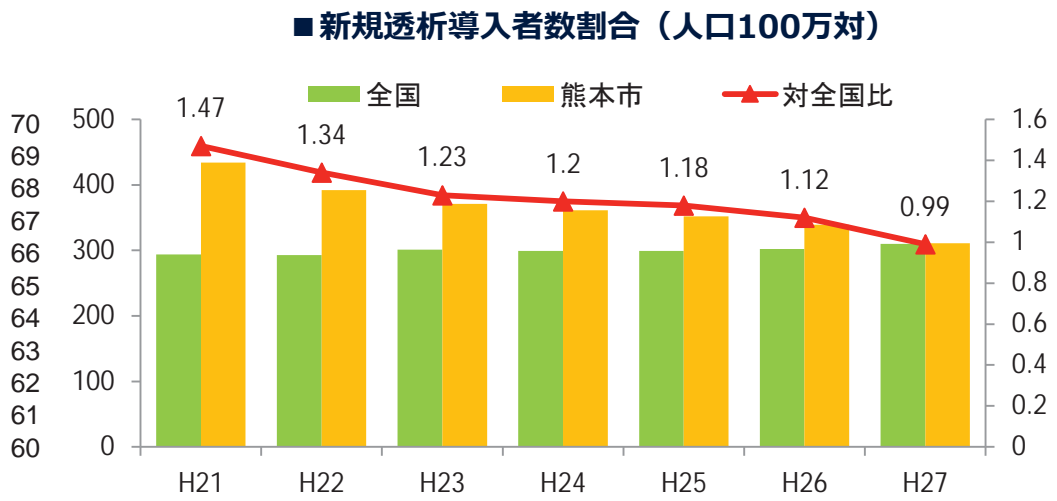
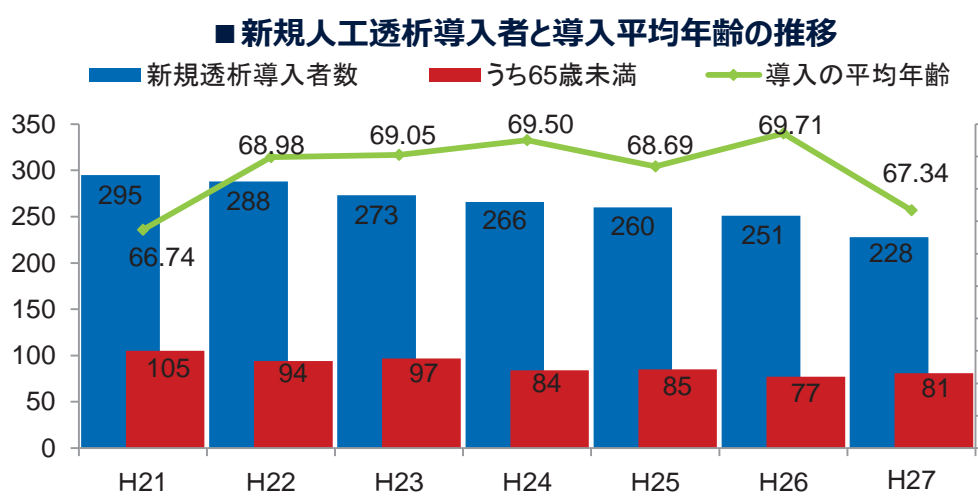


CKD病診連携医と腎臓専門医の双方で診療する2人主治医制（CKD病診連携システム）を構築し、患者の進行抑制、悪化防止につなげる。

事業効果

- 新規透析導入者 295人（H21）→228人（H27）
- 導入平均年齢 66.74歳（H21）→67.34歳（H27）

- ### 熊本市独自の
- ① 専門医紹介基準を作成
 - ② 紹介状様式の作成



大阪府寝屋川市「重症化予防事業の取組み」

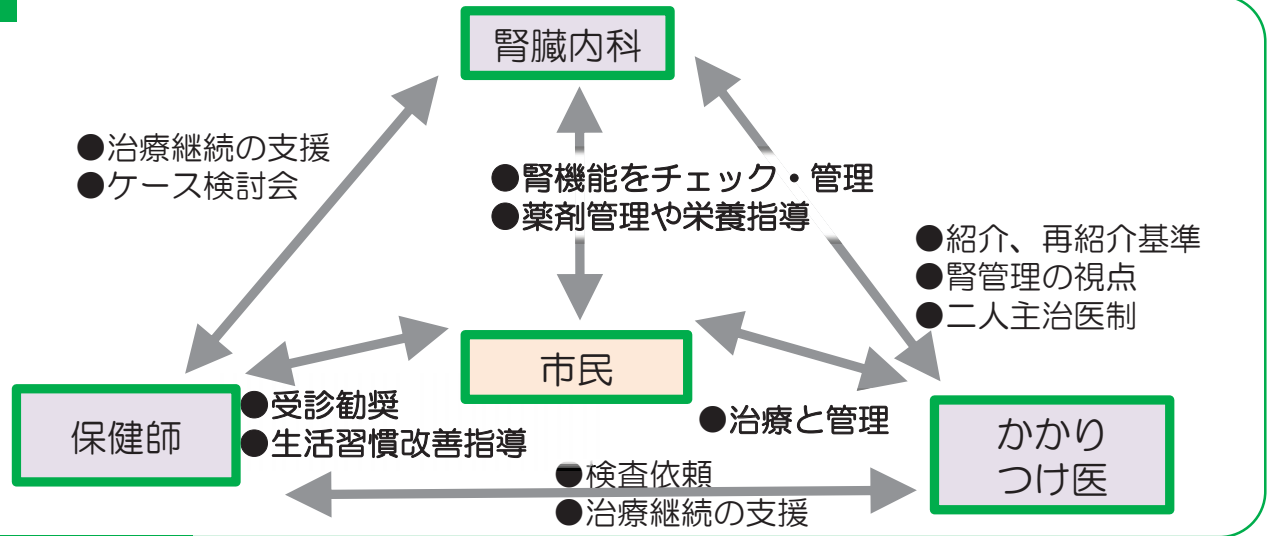


透析予防のための地域連携

CKD予防地域連携システム

地域連携協定

- H25年 寝屋川市・医師会・歯科医師会・薬剤師会・関西医大香里病院で生活習慣病重症化予防のための協定締結
- かかりつけ医と腎専門医の2人主治医制をすすめる
- 対象者には二次検査
 - ★頸部血管エコー
 - ★尿アルブミン精密測定結果に基づき、必要時専門医を勧奨



特定健診

特定保健指導

腹囲・BMI
血糖・血圧・中性脂肪
・HDLコレステロール
・喫煙・服薬の状況に
合わせ対象者選定

動機付け支援

積極的支援

重症化予防事業 数値該当、当該疾患未治療

高血圧 160/100mmHg以上

教室1回目	高血圧についての講義 疾患・日常生活の留意
教室2回目	食事に関する実習
医療機関	二次検査（頸部血管エコーと尿アルブミン測定）
教室3回目	個別での二次検査結果返却 受診勧奨
教室4回目	グループワーク 今後の継続に向けて

高血糖 HbA1c6.5%以上

教室1回目	糖尿病についての講義 疾患・日常生活の留意
教室2回目	食事・運動に関する実習
医療機関	二次検査（頸部血管エコーと尿アルブミン測定）
教室3回目	個別での二次検査結果返却 受診勧奨
教室4回目	グループワーク 今後の継続に向けて

腎機能低下 e-GFR60未満（70歳以上50未満）

教室1回目	腎臓・疾患に関する講義 日常生活の留意事項
医療機関	二次検査（頸部血管エコーと尿アルブミン測定）
教室2回目	個別での二次検査結果返却 受診勧奨

糖尿病治療歴あり、かつ微量アルブミン尿30以上の方もしくはe-GFR30未満の方

糖尿病性腎症Ⅱ期以降の方	
医療機関	二次検査（頸部血管エコーと尿アルブミン測定）
教室5回目	個別にて結果を返却し、必要に応じ、受診勧奨や保健・栄養指導を行う

OHbA1c平均値 微量アルブミン尿30以上又はe-GFR30未満

H27年度	保健指導前	翌年度健診
参加者	7.3	6.71
不参加者	7.46	7.44

参加者は合併症予防のための目標
7.0%未満をクリア

日本健康会議について

- 平成27年7月に、**経済界・医療関係団体・自治体・保険者団体のリーダー**が手を携え、**健康寿命の延伸**とともに**医療費の適正化**を図ることを目的として、保険者等における先進的な予防・健康づくりの取組が全国に広がるよう、民間主導の活動体として「**日本健康会議**」が発足。
- **保険者全数調査を実施**し、達成状況を**ホームページで公表**。
(※) 日本健康会議データポータルサイトで地域別などで「見える化」し取組を加速化
- メンバーは、**各団体のリーダーおよび有識者の計32名**で構成。
- 日本健康会議2017は、**平成29年8月23日に開催**。



今年の日本健康会議の様子

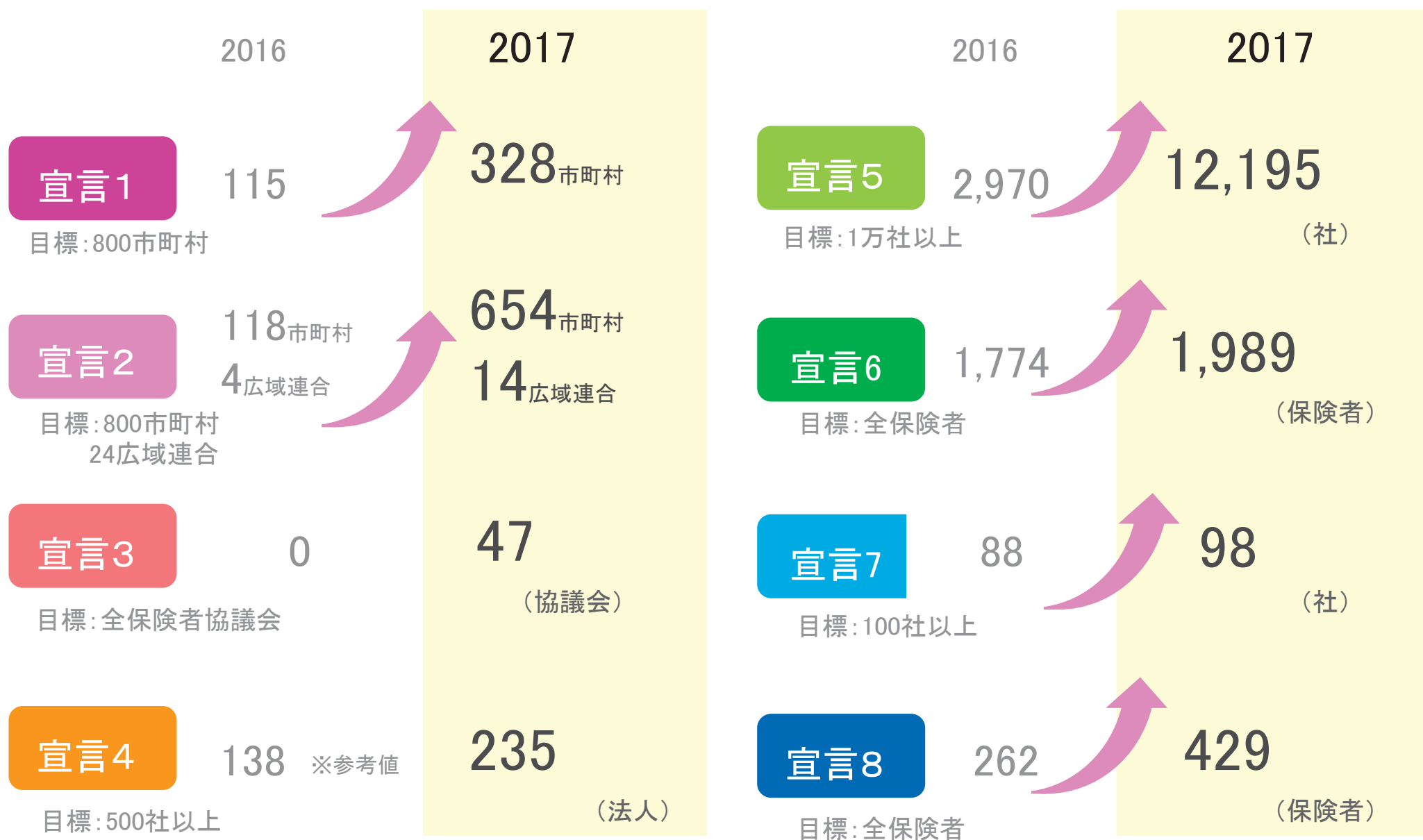
「健康なまち・職場づくり宣言2020」(8つの宣言)

宣言1	予防・健康づくりについて、一般住民を対象としたインセンティブを推進する自治体を800市町村以上とする。
宣言2	かかりつけ医等と連携して生活習慣病の重症化予防に取り組む自治体を800市町村、広域連合を24団体以上とする。その際、糖尿病対策推進会議等の活用を図る。
宣言3	予防・健康づくりに向けて、47都道府県の保険者協議会すべてが地域と職域が連携した予防に関する活動を実施する。
宣言4	健保組合等保険者と連携して健康経営に取り組む企業を500社以上とする。
宣言5	協会けんぽ等保険者のサポートを得て健康宣言等に取り組む企業を1万社以上とする。
宣言6	加入者自身の健康・医療情報を本人に分かりやすく提供する保険者を原則100%とする。その際、情報通信技術 (ICT) 等の活用を図る。
宣言7	予防・健康づくりの企画・実施を提供する事業者の質・量の向上のため、認証・評価の仕組みの構築も視野に、保険者からの推薦等一定の基準を満たすヘルスケア事業者を100社以上とする。
宣言8	品質確保・安定供給を国に求めつつ、すべての保険者が後発医薬品の利用勧奨など、使用割合を高める取組を行う。

WEBサイト上にて全国の取組状況を可視化



各宣言の達成度(達成保険者数)が大きく向上



「データヘルス・予防サービス見本市」の開催を全国に拡大

- 医療保険者が高度な専門性や人的資源を豊富に有する質の高い事業者を選定し、横展開を進めていくため、**健康・予防サービスを提供する事業者との協働・連携を推進**させる場として「データヘルス・予防サービス見本市2017」を、**名古屋（12月13日）、東京（2018年1月18日）**で開催する（2015年度に東京で初開催）。
- **2016年度から全国に開催地を拡大し、福岡（11月8日）仙台（11月21日）大阪（12月14日）**で開催した。
 ※健診・保健指導、データ分析、健康な職場づくりに関する商品・サービス等の展示やセミナーを開催（30ブース、45社が出展）
 ※医療保険者、地元自治体の担当者等、**約2,000人が参加**（2015年度の東京では約3,000人が参加）



データヘルス・
予防サービス見本市 **2017**

名古屋会場

2017年**12月13日（水）**
場 所：**ポートメッセなごや**

東京会場

2018年**1月18日（木）**
場 所：**プリズムホール**

データヘルス・予防サービス見本市2017 開催テーマ

深化と進化

～協働の拡大がつくる予防・健康づくりの未来～

健康経営の取り組み拡大、ICT事業者の参入、働き手からの健康づくりへの意識向上など 保険者をとりまくステークホルダーの動きも活発化しています
見本市3年目となる本年は、提供する情報・各ステークホルダー間のマッチング深化を実現し、予防・健康づくりの取り組みの進化を目指します



データヘルス・
予防サービス見本市 **2016**

■データヘルス・予防サービス見本市2016の様子



＜大阪：メイン会場＞
2016年12月14日 インテックス大阪
参加者数：1,297名

＜福岡：健康経営モデル＞
2016年11月8日 福岡国際会議場
参加者数：362名 ※健康保険組合連合会との併催

＜仙台：産官学連携モデル＞
2016年11月21日 仙台国際センター
参加者数：391名